



◎気温や湿度の変化に合わせ、手のひらで感触を確かめながら蠟を塗り重ねる。腰や腕への負担は見た目以上だとか

住人十色

えひめ伝統工芸士に認定

大森 太郎さん(内子9)

江戸時代の創業以来200年余りの歴史をもつ大森和ろうそく屋の六代目として、和ろうそく作りの伝統を守り続けている大森太郎さん。このたび、県が指定する伝統的特産品の製造者のうち、特に高い技術を持つ人として、「えひめ伝統工芸士」に認定されました。

40歳の時に会社を退職し、和ろうそく作りに専念してきた大森さん。竹串に和紙とい草の繊維を巻いた芯に40〜45度の木蠟を何度も何度も塗り重ねる昔ながらの作り方を、ひとつも変えることなく頑固に受け継いできました。昨年の春からは長男の亮太郎さんが七代目として修行を開始。作業場に並んで座り、父親の背中を見ながら技を学んでいます。

「朝晩ご先祖様に和ろうそくの明かりをあげて手を合わせていると、心が澄んでくるような気持ちになる」と大森さん。「先祖代々のやり方を大切に、毎日こつこつ続けてきたことが認められて嬉しい。木蠟で栄えた内子町で、よそに負けないものを作り続けたい」と語っていました。

編集 幸記

今回の人事で広報・広聴係から異動になりました。取材で多くの人に出会い、まちの魅力を発見できたことは、大きな財産です。今後の仕事に活かしていきます。また、いろいろとご迷惑をお掛けしたことを深くお詫びします。お世話になった皆さん、本当にありがとうございます。別れと出会い、変化の季節です。私は広報4年生になりました。いただいた「もう1年間」。大切に使用します。(み)

町内無線放送が聞き取れなかった場合はお電話ください。

通話料無料の
フリーダイヤル
☎0120(44)2130

